**件名：【教育の視点】AI が答えを出す時代に、「考える力」というギフトを手渡す**

キッズブラウン・パートナー教室　オーナー様、先生方各位

いつも大変お世話になっております。KidsBrown 編集部です。

少しずつ秋の気配が深まり、朝夕は心地よい風が感じられる季節となりました。教育 DX や生成 AI の活用が教育界全体で語られる昨今ですが、最近、教育関係者の間で大きな議論を呼ぶ論考と報道が相次ぎました。

今週は、そこで示された「子どもたちの知の危機」を見つめ直すとともに、AI 全盛の今だからこそ私たちが外国語教育を通じて子どもたちに手渡すべきものについて考えてみたいと思います。

---

## ■ 1. 東大・酒井教授の警鐘 ― AI への依存が奪うもの

日本経済新聞「経済教室」の論考で、言語脳科学の第一人者である東京大学の酒井邦嘉教授は、教育現場の急速なデジタル化と AI 依存に明確な警鐘を鳴らしています。論点は大きく三つです。

**読書習慣の減少と、読解力の低下。**
日常的に本をじっくり読み解く習慣が失われ、文章の論理構造を正確に捉える力が弱まっている。

**デジタル教材は記憶に残りにくい面がある。**
画面上のスクロールや断片的な情報処理は、紙の書籍が持つ空間的な位置感覚や深い認知的処理を妨げ、知識の長期的な定着を弱めてしまう。

**AI に頼るほど、自分を鍛える機会は失われる。**
言語能力や思考力は、「自ら悩み、論理を組み立てる」という認知的な負荷――いわば〝脳の汗〟――を通してはじめて育つ。要約や作文を最初から AI に委ねてしまえば、本人が力を伸ばす機会そのものが消えてしまう。

---

## ■ 2. 世界的な裏づけ ― PISA が映し出す現実

この指摘を裏づける材料として報じられたのが、もう一つの日経記事（FT 提携）「15 歳の学力 過去最低」です。

OECD の国際学習到達度調査（PISA）では、先進各国の 15 歳の成績がこれまでで最も低い水準にまで落ち込みました。かつて「テストを減らし、遊びや探究、デジタル活用を重視する」先進モデルとして世界から称賛されたフィンランドでさえ、はっきりとした低下が確認されています。

背景として指摘されているのは、コロナ禍による学びの空白だけではありません。スマートフォンやデジタル技術への過度な依存による深い読書と集中力の喪失、そして読み書きという教育の土台を軽視したこと。この二つが重く響いているとされます。

手軽なデジタル出力や AI の回答をなぞるだけでは、知的な足腰は育たない。その現実が、世界規模のデータによって示されつつあるのです。

---

## ■ 3.「考えること」は、人間に授けられたギフト

便利なツールに頼れば、数秒でスマートな文章が手に入ります。しかし、最初に自分の頭で迷い、問いを立て、試行錯誤するプロセスごと委ねてしまえば、脳は汗をかかなくなり、思考の足腰は少しずつ弱っていきます。

自らの頭で考え抜くこと。その知的な探求を、粘り強く楽しみ続けること。
それは勉強のテクニックではなく、人間が人間らしくあるために授けられた、かけがえのない「ギフト（天賦の才）」なのだと改めて感じます。どれほど技術が進化しても、この内なる思考の歓びだけは、誰にも代行させることができません。

**そして、外国語を学ぶという営みほど、このギフトを豊かに目覚めさせてくれるものはありません。**

私たちは普段、無意識のうちに自分が育ってきた言葉、生活様式、慣れ親しんだ文化の枠組みの中で世界を見ています。それはとても安心できる場所ですが、同時に世界の一つの切り取り方にすぎません。

未知の外国語の世界に一歩足を踏み入れるとき、その「当たり前」は心地よく揺さぶられます。

「この言葉では、世界をこんなふうに捉えるんだ」
「自分たちの常識とは違う背景や感情が、ここには流れているんだ」

なぜこの言葉はこう表現されるのか。相手はどんな文脈で物事を捉えているのか。他者の視点に思いを馳せ、自分の言葉と照らし合わせながら意味を紡ぎ出していく。その差異に驚き、悩み、能動的に理解しようと心を動かす時間こそが、凝り固まった認知をほぐし、自分という存在を大きく広げてくれます。

AI にプロンプトを入力して翻訳や要約を委ねる作業には、この「格闘」も「自己の拡張」もありません。遠回りに見えるその過程こそが、思考というギフトを最も美しく開花させる道なのだと思うのです。

---

## ■ 編集部からのメッセージ

私たちが教室で子どもたちに手渡しているのは、「英語という記号のルール」だけではありません。

KidsBrown の豊かなストーリーを通じて、自分の知っている世界の外側へ冒険に出かけ、驚き、心を震わせながら自分の頭で感じ取っていく体験そのものです。

AI が手軽に答えを出してくれる時代だからこそ、「自らの頭で考え、世界の違いを楽しむ」という一生もののギフトを、子どもたちの心に育てていきたい。この秋、私たちの教育実践が持つ意義の深さを、改めて先生方と共有できれば幸いです。

子どもたちの知的好奇心と豊かな心を育む、先生方の毎日の温かいレッスンを今週も心より応援しております。

KidsBrown Japan 編集部
公式サイト: https://kidsbrown.jp

---

## 💡 オーナー様へのアドバイス（保護者面談・スクール便りでの活用法）

「AI が翻訳してくれる時代に、なぜ子どもに英語を学ばせるのか？」という疑問をお持ちの保護者様が増えています。そんなときは、最新の脳科学や国際学力調査の指摘に触れながら、こうお伝えしてみてください。

「AI に頼るほど自分で考える力や読解力が育ちにくくなることが、世界中で問題になっています。母国語とは違う言葉や文化に触れ、自分の頭でその違いを感じ、考え抜く体験こそが、AI には真似のできない知性の土台になります。KidsBrown での学びは点数のためだけのものではなく、どんな時代でも自分の力で深く考え、世界を広げていける力を育てる時間です」

お教室が届けている教育の本質的な価値が、保護者様への確かな信頼につながります。